

ぶらっとサロン通信 令和2年10月増刊号



報告:有楽齋

毎週火曜日の午後1時過ぎから午後4時半ごろまで、朝日2丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為に、誠に口惜しいのですが、3月10日から自粛し**現在休局中**です。



『草木写生春秋之巻』狩野重賢画 明暦3(1657)～元禄12(1699)写本

二代将軍徳川秀忠がツバキを好んだのが、江戸時代に園芸が盛んになるきっかけのひとつだったといわれています。17世紀前半にツバキの品種は100を超え、それに呼応して数々のツバキを描いた著作が現われました。

全国から名花が江戸に集結 秀忠のもとには諸国の大名からツバキの名花が献上され、江戸城内の「吹上のお花畠」(前号の掲載図参照)に植えられました。現在も園芸植物の生産地である、九州、京都、中京(尾張)、金沢、富山、新潟などにはツバキの古木が残り、当時のブームの面影をうかがうことができます。江戸のツバキは全国から集められた品種ですが、開花期に特徴があります。上記の各地に残るツバキの開花期は初秋から春までで、冬に咲く品種も多く含まれています。しかし、関東地方では冬の乾燥した気候に早咲き品種はなじまなかったようで、江戸のツバキは早春から春先に咲く品種が主流です。

～NHK 趣味の園芸 2020.1月号 園芸研究家前田 悟(名古屋椿協会会長)ほか

今号でも、前号につづき『椿花集(1879)』に載る江戸期の古典品種に 『三鳥』(呼子鳥・稲負鳥・都鳥)『三妻』(雪見車・月見車・花見車)『五木』(唐錦・羽衣・春の台・後瀬山(のちせやま)・釣簀(つりかがり))『七木』(鶏の子・緋縮緬・春日野・沖の浪・見鷺・限り・漣浪(さざなみ))があります。今回は『椿花集五木』についてご案内します。

『椿花集五木』 「春の台(はるのうてな)」・「羽衣」・「釣簀(つりかがり)」・「後瀬山(のちせやま)」・「唐錦」



春の台(はるのうてな)
C. j.'Harunoutena'
白～淡桃色に紅色の縦～小絞り 八重 蓮華咲き 筒しべ 大輪
C.j.=Camellia japonica

羽衣(はごろも)
C. j.'Hagoromo'
淡桃色で花びらの基部は更に淡い色 八重 蓮華咲き 筒しべ 中～大輪

釣簀(つりかがり)
C. j.'Tsurikagari'
朱紅色地 白斑入り 八重咲き 花弁はやや中折れ 筒しべ 中～大輪

後瀬山(のちせやま)
C. j.'Nochise-yama'
淡桃色 八重 抱え咲き 不完全な筒しべ 中輪

唐錦(からにしき)
C. j.'Kara-nishiki'
淡桃色地 紅色吹掛け～小絞り 八重 蓮華性 筒しべ 大輪大輪

椿の説明等は「新装版日本の椿花園芸品種 1000」横山三郎 桐野秋豊淡交社刊等から引用しました。